

探究的な学習とは

・問題解決的な活動が発展的に繰り返される学習活動

探究的な学習における子どもの姿

・スパイラルに、発展的に学習活動を繰り返す

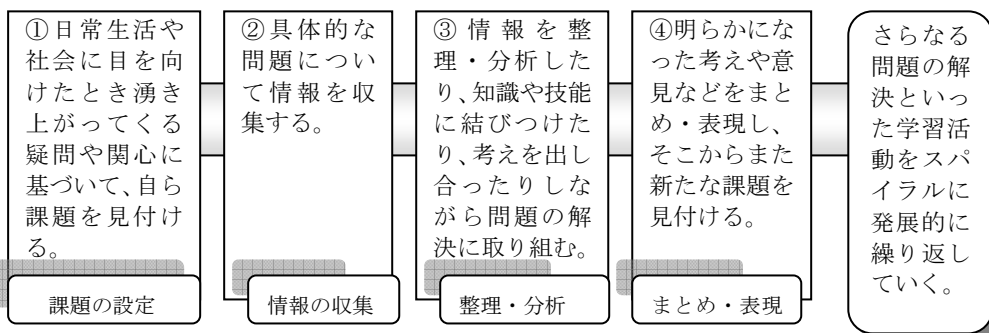
探究的な学習を行っている子どもの姿

【探究的な学習を行っている時の子どもの姿】

- ・学習活動への取組が真剣になれる子ども
- ・身に付けた知識や技能が活用でき、その有用性を実感できる子ども
- ・見方が広がったことを喜び、さらなる学習への意欲を高めている子ども
- ・概念が具体性を増して理解が深まられている子ども
- ・学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚し、自己の生き方を考えられる子ども

本研究では、主体的に学び続ける子ども達を育むためには、探究的な学習を進めることが重要であると提案している。総合的な学習の時間における探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動であり、物事の本質を探って見極める一連の知的営みである。そして、探究的な学習における児童の姿は、次の①から④のような姿として想定される。ただし、①から④の順番は必ずしも固定的にとらえる必要はない。

【 探究的な学習における児童の学習の姿 】



【探究的な学習を目指した実践例での子どもの感想】

「ちいきの人たちからむかしあったししまいをさわらせてもらいました。わたしはししまいをつくっておまつりをしてみようと思いました。ししまいやかざりをつくってみました。アイデアをつけました。

でも、うまくできませんでした。先生にみせてアドバイスをもらって、もっとアイデアをつけました。つぎに、ちいきの人につくっているししまいをみてもらいました。もっと、いいアドバイスをもらって、よくなりました。

さいごに2年生に発表したら、楽しんでくれました。こんどは、家のひとやもっとおおくの人たちに発表したいです。」



[3年・お祭り、再発見！]より

活動を終えた後の3年生の振り返りの一部である。この子どもは、友だちや教師、地域の人たちと関わるなかで、「驚き」や「新たな発見」を繰り返しながら、主体的に最後まで学び続けている。さらに、活動を終えた後も、今まで以上の発表を試みたいと新たな課題を生みだしている。

このように、探究的な学習を進めると、子ども達は、事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取組が真剣になる。そして、さらなる学習への意欲を高め、活動を発展的に進めることができる。子ども達は、これらの一連の活動を通して、自分の成長を自覚し、自己の生き方を考えられるように成長していく。

探究的な学習を進めるための具体的な手立て

【探究的な学習を成立させるために大切にしたこと】

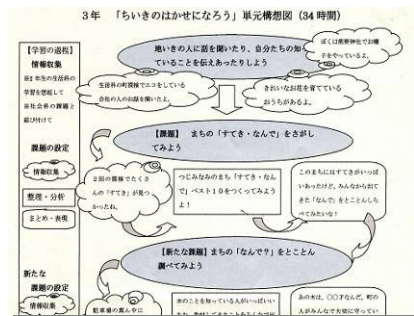
- ・探究的な学習をより強く意識した「単元構想図」

手立て1 探究的な学習過程

探究的な学習を成立させるためには、子どもの疑問や関心を源とする活動を単元を通して展開することが大切である。なぜなら、子どもの関心や疑問をよりどころにしながら活動を進めれば活動への意欲は高まり、学習も真剣なものとなる。

学んだ内容も生きて働くものとなるが多くなるからである。会場校では子どもの疑問や関心を生かすための方策として、新たに探究的な学習をより強く意識した「単元構想図」を作成している。会場校の職員は、①子どもの立場で考え②複数の教師で

予測し合い、意見の異なった点については慎重に検討し③タイプの異なる子どもの姿を想定するなど、可能な限り具体的な子どもの姿を丁寧に予想しながら「単元構想図」を作成している。



【単元構想図の一例】

手立て2 学びを連続させる話し合い

【探究的な学習を成立させるために大切にしたこと】

- ・活動をつなげ、発展させる場の設定

総合的な学習の時間における探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。問題解決的な活動を繰り返すためには、



【友だち同士の話し合い】

得られた幅広い情報を整理・分析したり判断したりしながら、既習の知識や経験とを結びつけ、活動をつなげ、発展させる場を設定する必要がある。会場校では、友だち相互の話し合い活動を通して、活動をつなげ、発展させながら問題解決的な活動を進めている。

手立て3 探究的な学習をささえる教材

【探究的な学習を成立させるために大切にしたこと】

- ・児童の身近であり、直接体験をしたり、繰り返しかかわったりすることのできる教材の活用
- ・児童の学習活動が豊かに広がり、発展していく教材の活用

総合的な学習の時間を探究的な活動として成立させるためには、身近にある教材、発展的な展開が期待される教材を用意することが大切である。身近な教材であると子ども達の活動は連続的になる。発展していく教材であると、学習活動が次々と展開でき、子どもの学習活動がひろがり、学習の深まりが生まれる。

会場校では、事物に触れ、実際に行ったりするなどの直接体験ができる身近な教材、実際の生活の中にある問題や事象を追求できる教材を取り上げて活動を進めている。



【地域の環境教材とのふれあい】